

2022年3月20日 午前礼拝
「聖霊の導き」 説教:大木英雄牧師

【引用聖句】使徒 16:1~10

- 1 それからパウロはデルベに、次いでルステラに行った。そこにテモテという弟子がいた。信者であるユダヤ婦人の子で、ギリシヤ人を父としていたが、
- 2 ルステラとイコニオムとの兄弟たちの間で評判の良い人であった。
- 3 パウロは、このテモテを連れて行きたかったので、その地方にいるユダヤ人の手前、彼に割礼を受けさせた。彼の父がギリシヤ人であることを、みなが知っていたからである。
- 4 さて、彼らは町々を巡回して、エルサレムの使徒たちと長老たちが決めた規定を守らせようと、人々にそれを伝えた。
- 5 こうして諸教会は、その信仰を強められ、日ごとに人数を増して行った。
- 6 それから彼らは、アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられたので、フルギヤ・ガラテヤの地方を通った。
- 7 こうしてムシヤに面した所に来たとき、ビテニヤのほうに行こうとしたが、イエスの御霊がそれをお許しにならなかった。
- 8 それでムシヤを通過して、トロアスに下った。
- 9 ある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニヤ人が彼の前に立って、「マケドニヤに渡って来て、私たちを助けてください」と懇願するのであった。
- 10 パウロがこの幻を見たとき、私たちはただちにマケドニヤへ出かけることにした。神が私たちを招いて、彼らに福音を宣べさせるのだ、と確信したからである。

【説教要約】

(A)パウロのメツセーシでテモテが救われた。

使徒 16:1, それからパウロはデルベに、次いでルステラに行った。そこにテモテという弟子がいた。信者であるユダヤ婦人の子で、ギリシヤ人を父としていたが、



パウロはルステラで石打の刑にされました。弟子たちはパウロが死んだものと思い、パウロを取り囲んでいると、パウロは蘇生して生き返りました。皆様だったら自分を石打の刑にして殺した、ルステラに行きたいと思いませんか。ほとんどの人は行きたくないと思いません。しかしパウロはルステラを訪問したのです。

ところがルステラでパウロのメツセーシを聞いてテモテが救われていたのです。パウロの喜びがどれほどだったか、想像することはできません。ルステラでパウロが石打の刑に合うという犠牲は大きかった。けれども、テモテが救われたことは神様の恵みです。

(B)パウロはテモテに割礼を受けさせた。

使徒 15 章の教会会議で救われるためには、キリストの十字架と復活を信じれば十分で、割礼を受ける必要がないことがはっきり決まりました。それなのにどうしてテモテに割礼を受けさせたのか。

ガラテヤ 2:3, しかし、私といっしょにいたテトスできえ、ギリシヤ人であったのに、割礼を強いられませんでした。

ガラテヤ 2:4, 実は、忍び込んだにせ兄弟たちがいたので、強いられる恐れがあったのです。彼らは私たちが奴隷に引き落とそうとして、キリスト・イエスにあって私たちの持つ自由をうかがうために忍び込んでいたのです。

ガラテヤ 2:5, 私たちは彼らに一時も譲歩しませんでした。それは福音の真理があなたがたの間で常に保たれるためです。

パウロはテトスが割礼を受けることを断固として反対しています。テトスは生粋の異邦人なので、ユダヤ人はテトスが救われるためには、割礼を受けなければならないと出張したので、異邦人が救われるためにはキリストの十字架と復活を信じるだけで十分なので、割礼を受けさせなかったのです。

しかしテモテは生粋の異邦人ではなく、テモテの母親はユダヤ人なので、ユダヤ人が割礼を受けるのはアブラハム契約によって受けるので、これは救いの条件ではないのです。パウロはシラスとテモテを連れて宣教に出かけようとしていました。パウロが宣教するとき、頻繁にユダヤ人に会います。

ユダヤ人が、テモテが割礼を受けていないことを知ったら、ユダヤ人はパウロの語る福音に耳を傾けないと思われます。しかしテモテが割礼を受けていれば、ユダヤ人は割礼の点でパウロの語る福音に、つまづくことはないだろうと考えて、テモテに割礼を受けさせたのです。

I コリント 9:20, ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。それはユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人々には、私自身は律法の下にはいませんが、律法の下にある者のようになりました。それは律法の下にある人々を獲得するためです。

I コリント 9:21, 律法を持たない人々に対しては、・・・私は神の律法の外にある者ではなく、キリストの律法を守る者ですが、・・・律法を持たない者のようになりました。それは律法を持たない人々を獲得するためです。

I コリント 9:22, 弱い人々には、弱い者になりました。弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。

I コリント 9:23, 私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みとともに受ける者となるためなのです。

(C)教会会議で決まったこと

①救いの条件

キリストの十字架と復活を信じるだけで十分です。割礼を受けることと律法守ることを救いの条件に付け加えない。しかし教会には教会規則というものがありまして、教会規則を破ったものは教会員としての資格を失います。教会員としての資格を失ったからと言って天国へ入れてもらえなくなるわけではありません。

②性的に不道德な行為は、いかなる時代においても、全ての信者に禁じられています。

③偶像に捧げた肉、絞め殺した動物からとった肉、その血は食物とすることが禁じられています。

(D)聖霊の導き

使徒 16:6, それから彼らは、アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられたので、フルギヤ・ガラテヤの地方を通った。
アジアで御言葉を語ることを禁じられた。

使徒 16:7, こうしてムシヤに面した所に来たとき、ビテニヤのほうに行こうとしたが、イエスの御霊がそれをお許しにならなかった。
ビテニヤの方に行こうとしたが、聖霊によって禁じられた。

マルコ 16:15, それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。

「マルコ 16:15 で語られていることと矛盾しているではないですか」と言われるかもしれませんが、神様はアジアではなくヨーロッパに先に宣教してほしかったのです。ヨーロッパからアメリカに、アメリカからアジアへと言う順番があったのです。福音を語る場所が大切です。

西牟田先生は亀岡で伝道しています。亀岡はお寺の町です。200 軒以上も寺があります。西牟田先生は場所が問題だと言います。現在亀岡に集っておられる人も亀岡の町からではなく、山一つ越えたところから来ておられます。

田村先生は、「場所は関係ない」と言っていていつも議論しています。田村先生もジャカルタでの宣教は成功しましたが、スラバヤでの宣教は悪戦苦闘しています。やはり場所は大切だと思います。しかし小山教会の浜田先生は茨木の難しいところで伝道されていますが、礼拝に 80 名以上の方々が集っています。

パウロのような宣教者でもアジアで御言葉を語ることを禁じられ、ビテニヤで御言葉を語ることを禁じられています。

ローマ 8:28, 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

神様には御計画がおありなのです。神様の優先順位はアジアではなくまずヨーロッパだったのです。私も 2012 年に滝山教会を退任しましたが、2 年近くはいろいろな教会から招かれましたが、私は伝道しなかったのです。青年フェロシップキャンプに出席した時、キング先生が、

イザヤ書 6:8, 私は、「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう。」と言っておられる主の声を聞いたので、言った。「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」このみ言葉で再献身したのです。私は所沢方面で開拓伝導をしようと見に行きました。しかし滝山教会の片村先生が、滝山教会から近すぎるということでダメになりました。どこかで伝道しなかったのです。

使徒 16:9, ある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニヤ人が彼の前に立って、「マケドニヤに渡って来て、私たちを助けてください。」と懇願するのであった。

滝山教会の高木執事がメッセージで使徒 16:9「マケドニヤに渡ってきて、私たちを助けてください。」というメッセージを聞いた時、高田先生から「葛西教会に来て助けてください」と電話がありました。私は、これは聖霊の導きだと信じました。

そして 2014 年の 4 月に葛西教会の牧師として招聘されました。私は滝山教会で祝福されましたので葛西教会でも滝山教会と同じ方法でやらせていただきましたが、葛西教会と滝山教会では場所が違います。場所の違うところで同じ方法でやってもうまく行きません。それと 1 番大きな問題は私達夫婦が葛西教会の近くに住まなかったことだと思います。

たしかに私たちは小平で里親をやっていましたので子供たちは小平から学校へ通っていました。今思うと仕方がなかったとはいえ、葛西教会の近くに住んで葛西教会に骨をうずめる覚悟がないと伝道はできないと思います。

今はコロナでインターネットですから場所は関係ないと思います。それに神様が堺希望兄弟を葛西教会に遣わしてくださり葛西教会の近くに住んでくださっているので、神様が葛西教会を祝福してくださると信じています。